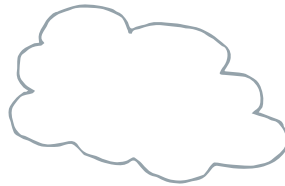
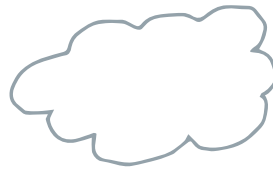


2013



CCC

活動報告書

愛知淑徳大学

コミュニティ・コラボレーションセンター

C contents

1. CCC の役割	P.4
2. CCC 開設科目	P.5
3. 学生のボランティア・社会貢献活動	
3-1 学生の自主企画事業	
・ 東日本大震災支援活動	P.6
・ 高齢者 × 子ども達を「りんく」させる地域福祉活動	
・ 名東区人権尊重のまちづくり事業	P.7
・ ながくて大学生ごみ減量プロジェクト「Na-Gomi」	
・ トヨタ車体(株)主催 障がい児との交流イベント	P.8
・ デンソーグループハートフルまつり	
・ 内閣府国際青年育成事業 愛知県受け入れプログラム	P.9
・ 名古屋コーチンもりあげ隊	
3-2 学内助成事業「チャレンジファンド」	P.10
4. 2013 年度 活動実績	
・ カレンダー	P.14
・ CCC 学生スタッフの活動	P.16
・ CCC 企画 2013「環境サロン」	P.18
・ ニュースレター「コラボ通信」	P.19



I ntroduction

国籍、言葉、文化、性別、年齢、障がいなど互いの違いを正しく知り、
互いが生かし、生かされ合う存在だと認めて生きる——

愛知淑徳大学の理念「違いを共に生きる」に込められた思いを受け継ぐコミュニティ・コラボレーションセンター（CCC）は、「地域に根ざし、世界に開く」という姿勢で、学生の実践力を育む「教育」と、学生の自主活動を支える「支援」に取り組んでいます。

学生一人ひとり、輝く個性や未来を拓く力を持っています。その大きなパワーを地域での「体験」や「実感」を通して引き出すのが、CCCの役割。学外のさまざまなコミュニティとの連携を強め、地域社会と大学の活性化を図ること、そして、これから社会へ羽ばたく学生たちの視野を広げ、人間力や社会人基礎力、生きる力を育むことをめざしています。CCCから地域、社会、世界へ飛び出した学生は、さまざまな人と交流を深めながら共に活動し、「違いを共に生きる」社会の実現に向けた新たな風を次々と起こしています。

本冊子では、2013 年度、学生が地域の様々な活動を通して得た学びの一部をご報告します。CCCを通して活動するそれぞれの団体、組織との協働をまとめ、少しでも全体像が見えるよう編集しました。学生の活動は多岐にわたりますが、本冊子を通して、学生たちの熱意を感じていただければ幸いです。

M essage

この度は「2013 年度 CCC 活動報告書」を手にとっていただき、ありがとうございます。

学生たちの想いを地域へ広げ、大きな花として咲かせたい。こうした信念のもと、2006 年に CCC が開設されてから 7 年、多くの学生たちが地域での活動に主体的にチャレンジするようになりました。特に 2013 年度には、持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ会議が愛知・名古屋で 2014 年 11 月に開催されるにあたり、学内外で ESD に対する意識を高めた取組みを学生が自主的に展開し、継続的に取り組みました。

このような「想い」を「かたち」にしていくことで体得した学びの一部をこの一冊にまとめました。

私どもの取組みにご賛同いただき、次世代を担う学生に貴重な学びの場をご提供いただきました地域の皆様には、改めて心よりお礼申し上げますとともに、今後のご指導、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

社会とともに、未来とともに。

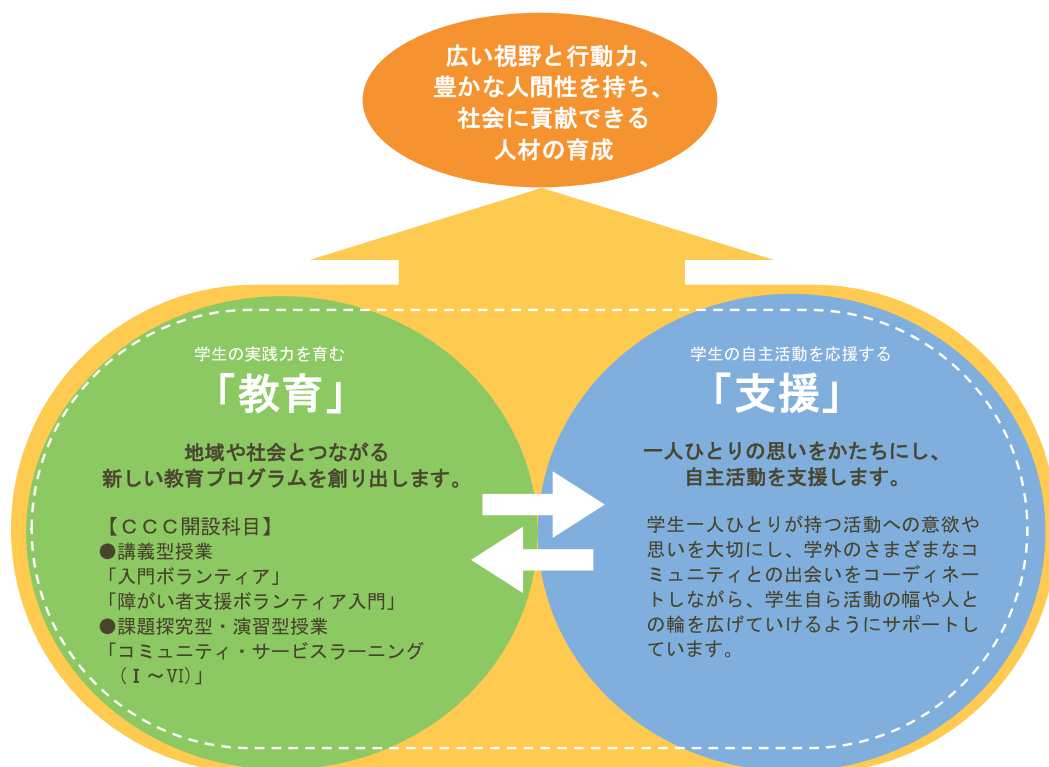
コミュニティ・コラボレーションセンター
センター長 プイチ トルン



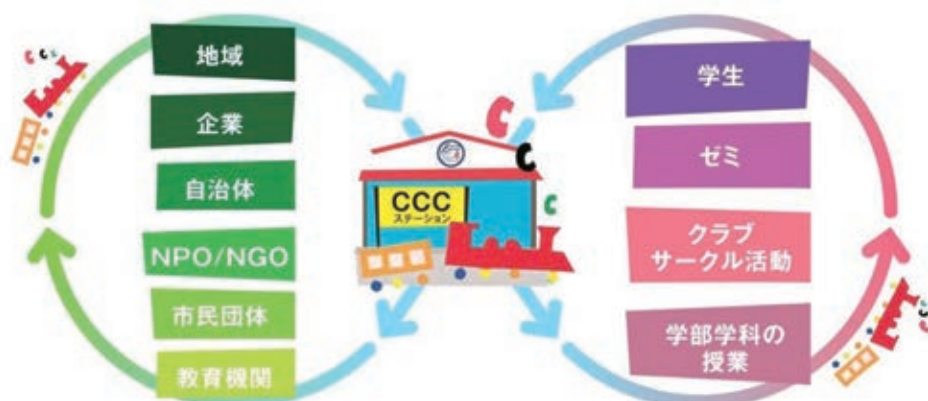
1

CCC の役割

CCC は、学生の実践力を育む「教育」と学生の自主活動を応援する「支援」の2つを軸に、学生が「文化」「世代」「地域」「社会」の違いや多様な価値観に共感し、自己を成長させる「生きた学び」が得られるようにサポートしています。



具体的には、学生の力を必要としている地域・企業・自治体・NPO・NGO・教育機関との出会いをコーディネートし、学生の思いを実際の活動へと結びつける橋渡しをしています。さらに、学生たちが活動中に困難な事態や課題に直面したとき、自分自身で答えを導き出せるように考える力を引き出すサポートを大切にしています。



CCC では、社会貢献活動に学生が段階的にチャレンジできるよう、授業を開講しています。こうした授業を通して地域や社会へ一歩踏み出した学生は、自ら考え、行動する実践力を高めていきます。

入門ボランティア

小島 祥美 先生・橋本 吉広 先生

地域での実践事例を通して地域の課題を知り、ボランティア活動の「魅力」を学び、「参加」につなげることをめざします。様々な分野で活躍する地域の方々から事例をお聞きし、身近なところからできるボランティアを実施します。

障がい者支援ボランティア入門

黒川 文子 先生

肢体、視覚や聴覚に障がいのある人への支援技術として、移動支援（車イス）、手話、ノートテイク、パソコンテイクを学びます。さまざまな支援技術にふれることで、幅広く障がいのある人への理解を深め、支援を必要としている人への支援活動につなげていきます。

コミュニティ・サービスラーニング（Ⅰ）～（Ⅵ）

（Ⅰ）まちづくり

小島 祥美 先生

行政などと協働し、世界共通のアイコン（絵文字）を活用した環境マップ（グリーンマップ）づくりの企画・運営を通じて、地域が抱える課題とその解決方法を考えていきます。

2013年度は、長久手市内の小学校に通う子ども達と一緒に、香流川流域を廻り、グリーンマップを作成しました。



（Ⅱ）企業のCSR活動

小林 三太郎 先生

企業の社会貢献活動・CSR活動の企画立案に参加し、学内の講義と学外での実践を通してCSR活動の重要性を修得します。

2013年度は酒造卸業者と連携し、日本酒普及のための企画提案を実施しました。

企業人の講演を聞くことから始まり、該当分野のマーケティングを実施し、学生3グループがそれぞれ企画立案しました。また、企画案を担当企業先で発表し、現実化できる企画について採択して頂きました。

（Ⅳ）地域福祉

橋本 吉広 先生

地域での福祉実践への参加を通し、地域福祉の現状と課題について学びます。

2013年度前期は、社会福祉法人 TUTTI の作業現場（名東区・コープあいいちりサイクルセンターなど）で障がいをもつ若者たちと一緒に働くことを通し、障がいをもちながらも明るく元気に働く人たちと交流し、理解を深めました。

2013年度後期は、「コープくらしたすけあいの会」の協力会員（援助者）と共に、千種区での高齢者の家事援助や介助、子どもたちの保育園送迎などに参加し、地域で暮らす高齢者や子育て家庭、また援助者と実際に触れ、地域での生活課題を学びました。



（Ⅴ）日本語学習支援

日置 陽子 先生

日本語学習支援（地域の日本語教室等）の役割や方法を学び実践することを通して、在住外国人を取り巻く地域社会や日本語学習支援の現状・課題への理解を深めます。

2013年度は、一般の人に日本語ボランティアを知ってもらう企画を実施したほか、名古屋モスクに来るムスリムの方々を対象にしたものなど、様々な日本語学習支援に取り組みしました。



（Ⅵ）食と環境

小早川 真衣子 先生

自分たちの「食」をふり振り返りながら、その周辺にある様々な環境に関する理解と認識を深めます。2013年度は、名古屋市農業センターと連携し、食の生産に携わる人たちの想いに触れながら、センターの資源を活かしたワークショップ等を企画・実施し、自分たちの学びを地域の方々と共有しました。



3

学生のボランティア・社会貢献活動

3-1. 学生の自主企画事業

東日本大震災支援活動

2011年度より「なごやであそび隊」が東日本大震災により愛知県に避難してきた子どもたちと保護者の方々を対象に、「名古屋の魅力あふれる場所でもいっしょに遊ぼう」をテーマに、継続的に活動をしています。また2013年度からは、避難してきた子どもたちと名古屋近郊に住む子どもたちの交流の場づくりを目的として「ういく (with + walk)」という団体が結成され、「なごやであそび隊」と協働しながら活動を進めています。

開催日	事業名	参加者数
6月30日(日)	なごやであそび隊「東山動植物園に行こう！」	13家族 44名
8月9日(金)～10日(土)	なごやであそび隊「おとまり会をしよう！」	8家族 16名
8月17日(土)	ういく「サマーキャンプをしよう！」	14家族 22名
11月3日(日)	なごやであそび隊「大学祭へ行こう！」	5家族 17名
12月19日(日)	なごやであそび隊 × ういく「クリスマス会をしよう！」	11家族 26名

【学生の声】

人間情報学科2年 安藤 佑哉

初めての試みで、準備も大変で不安なこともありましたが、でも、イベント中子どもたちはみんな笑顔で遊びまわり、お別れの時には帰りたくないと言ってくれたので、本当にやって良かったと思います。これからも子どもたちを笑顔にできるような活動を続けていきたいです！

【参加した保護者の方の感想】

子どもが、お兄さんやお姉さんと一緒に楽しく過ごすことができて、とても良かったです。私もリフレッシュできて、明日からがんばれそうです！いつもありがとうございます。



高齢者 × 子ども達を「りんく」させる 地域福祉活動

2013年度より、名古屋市白金児童館、名古屋市昭和区社会福祉協議会、愛知淑徳大学 学生団体「りんく」の3団体において、地域の顔が見える関係づくりを目的とした事業「コミュカフェ」を行っています。大学生、地域の高齢者と子どもたちが昔懐かしいあそびや季節行事を通して交流を深め、また白金のまちの様子について話し合いをしています。将来、子ども達が自然に高齢者の皆さんを支えられるようなまちづくりを目指しています。

【学生の声】

心理学科3年 小川 紗也加

はじめは、子どもたちや高齢者の方々との接し方にとまどいましたが、回数を重ねるごとに打ち解けていきました。高齢者の方にも活動の意義を理解していただいており、今ではコミュカフェの開催を楽しみにして下さる声も多く、やりがいを感じています。試行錯誤の連続ですが、仲間や後輩と楽しく取り組んでいます。来年度は、今年度出来た「顔が見える関係づくり」から一歩進んで、子ども達が自主的に高齢者の皆さんに関わりたいと思えるような場面づくりを行っていく予定です。

【地域の方の声】

白金児童館 山田 知行 様

「りんく」のみなさんは、子どもたち、お年寄りの両者からとても人気があります。児童館職員ではなかなかできない雰囲気づくりや企画の進行は、やはり大学生のみなさんだから成せる業だと思います。「りんく」の今後の活躍にとても期待しています。将来、誰もが助け合って過ごせる白金のまちを一緒に創っていきましょう！



高齢者と子ども達の
顔が見える
関係づくり

子ども達が自主的に高齢者の方に関わりたくなる場面づくり
高齢者の方が地域の子供達にお願いができる場面づくり

子ども達が高齢者宅を訪ねて、
自然にお手伝いできる
支えあうことができるまちづくり

名東区人権尊重のまちづくり事業「めいとう☆という～カルタを作ろう!～」

名東区との協働で、名東区に住む高齢者や障がい者、外国人、子どもなど、様々な方が共に生き、すべての人が同じ区民として大切にされるまちづくりの意識を啓発するため、名東区人権尊重のまちづくり事業「めいとう☆という～カルタを作ろう!～」が企画・実施されました。

当日（2014年2月11日）は、名東区に住む親子38名と、名東区で様々な活動をする団体のみなさんと、愛知淑徳大学の大学生と一緒に、お互いの個性が尊重されるまちへの願いを込めて、「めいとう☆というカルタ」を作成しました。



【学生の声】

ビジネス学科4年 中川 由有・交流文化学科4年 塩崎 未来

「十人十色」のように、「みんな違って、みんないい」。そして、その違いを生かして、一人ひとりが大切にされるまちになればいいなあという想いを込めて、「めいとう☆という」を企画しました。

当日はみんなが作った色とりどりの素敵なカルタや、元気いっぱいのカルタ大会の様子を見ることができ、私たち大学生も、名東区のみなさんと、とても楽しく、温かな時間を過ごすことができました。

【地域の方の声】

名東区役所 まちづくり推進室 加藤 孝規 様

当初、人権尊重のまちづくり事業の委託の話を愛知淑徳大学の学生さんに持っていくとき、どのような企画になるだろうかという期待と、自分のような若輩者が良い事業にできるだろうかという不安の両方をもっていました。しかしながら、自ら企画を考へ、主体的に行動する学生さんの姿をみて、本当に素晴らしいなあと感じるとともに、きっと良い事業になるだろうという期待が膨らんでいきました。

そして、当日は、明るくはつらつと会場運営する学生さんやボランティア団体の皆様の姿に触発されたかのように、会場の雰囲気はどんどん良くなり、参加された区民の皆様も自然と笑顔がこぼれるようになるのが見て取れました。できあがった「めいとう☆というカルタ」や最後の記念撮影の写真を見ても分かるように、本当に楽しく、素晴らしい事業となりました。

企画から携わってくださった学生さんをはじめ、ご協力くださったボランティア団体の皆様、参加された区民の皆様、そして愛知淑徳大学 CCC の皆様には、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

ながくて大学生ごみ減量プロジェクト「Na-Gomi」

長久手市との協働で、メディアプロデュース学部を学生を中心に、市民によるごみ減量等の取り組みを活性化し、ごみ減量に繋げるための活動を行っています。2014年度の本格実施に向けて、学部の専門性を活かしたゆるキャラ作成とそれを活用した啓発プログラムを検討しています。2013年3月の「ながくて環境フェア」では、活動を報告した他、市民の方々からゆるキャラの案を募集するブースを出展し、市民との交流を深めたことで、今後の活動に資するアイデアを得ることができました。



【学生の声】

メディアプロデュース学科2年 山口 藍

普段のミーティングでは、時間を忘れるほどメンバーと楽しく話合っています。制作やごみ処理の勉強にもなります。「Na-Gomi」がブースを出展した長久手市のイベントでは、多くの市民の方と関わることができ、とても楽しい時間を過ごしました。今後も、ゆるキャラを使ってのごみ減量に取り組んでいきます。



【地域の方の声】

長久手市役所環境課 奥村 修一 様

長久手市役所環境課では、2014年度からの一般廃棄物処理基本計画（ごみをどのように減らしていくかを計画したもの）を策定していました。その中で、大学生とともに長久手市のごみ減量について考えてみようということになり、愛知淑徳大学にお声掛けさせていただきました。愛知淑徳大学とのプロジェクトは、まず学生として何ができるかという点を考えることから始まりました。そして、今回、このプロジェクトに集まった学生の皆さんの特徴を生かし、長久手市のごみ減量をPRするための「ゆるキャラ」を作ることになりました。

プロジェクトを進める中で学生の皆さんが「ゆるキャラ」を調べ、その目的や背景を探ることによって、今回作るキャラクターを安易に作らず、市役所環境課の思いなどにも配慮し作成に取り組んでいるその姿に感謝し、また、学生さんから溢れ出るパワーを感じています。プロジェクトの活動としては、2014年3月に実施した「ながくて環境フェア（市主催による）」の中でプロジェクトチームのブースを企画し、市民の方から「ゆるキャラ」のアイデアを募集したり、自分たちの活動をステージ発表するなどいよいよ本格的になってきました。

今後も、「ゆるキャラ」完成、そして、次のステップに向けて、ともに協力して取り組んでいきたいと思っています。一緒に頑張りましょう。

トヨタ車体(株)主催 障がい児との交流イベント

「障がいのある子ども達をブルーベリー畑に招こう!」とトヨタ車体(株)の社員・OBの皆さんの声かけで、知立市・刈谷市社会福祉協議会、愛知淑徳大学、愛知教育大学のメンバーで企画し、当日は障がいのある子ども達のブルーベリー摘みのサポート、ブルーベリーを使っのワークショップを行いました。

各団体が集まった事前のグループワークでは、「障がいへの理解」や「どのようにおもてなしをするか」をみんなで考え、当日に向けて準備をしました。また、当日はブルーベリー摘みの後、子ども達が絵を描いたり、摘んだブルーベリーの量を計って、重さを競い合いました。

【学生の声】

- ・事前にトヨタ車体さまや愛知教育大学の皆さんと企画を考えたり、障がいのある子との関わりについて考えることで、当日、協力して運営することができました。
- ・障がいのある子と1対1で関わることで、どう接したら良いか学ぶことができました。



【参加した保護者の方の感想】

- ・普段は周囲を気にする子が、今日はボランティアさんがしっかり気持ちを受け止めてくださって、楽しく過ごせているようでした。
- ・人混みには行けない子が、今日は皆さんと楽しくブルーベリー摘みができました。是非、また機会をつくってほしいです。



デンソーグループハートフルまつり (以下、ハートフルまつり)

2013年7月7日に(株)デンソー本社にて「デンソーハートフルまつり」が開催されました。当日の運営サポートボランティアとして、約70名の愛知淑徳大学学生が参加しました。また、CCCの学生スタッフが「想いを伝えLETTER」と題し、手紙を通じて日頃の感謝を伝えるきっかけ作りのブースを出展しました。

【学生の声】

- ・デンソーハートフルまつりでは、講演会やたくさんのブースがあり、興味深いものばかりでした。
- ・参加される方々の笑顔がとても輝いていました。
- ・CSRってなんだろう?と考えるきっかけになりました。
- ・一人ひとりに目を向けてくれ、社員の方々がとても温かかったです。
- ・子どもからおとなまで幅広い年代の方がブースに来てくれました。誰に宛てて書くのか、何を書こうか悩んでいる姿がとても微笑ましく、企画してよかったです。

CCC 学生スタッフ



【地域の方の声】

(株)デンソー 総務部 社会貢献推進室 木村 恭子 様

「ハートフルまつり」は、デンソーの社会貢献イベントの集大成で、毎年多くのデンソーグループ社員、地域団体・学生の皆さんに参画頂き、多くの参加者の方に楽しんでいただいています。毎年、多くの愛知淑徳大学 CCC の学生さんにボランティアとして参加いただき、たいへん心強く思っています。NPO団体や社員ボランティアブースでの物販や体験コーナーのお手伝いなど、活動内容は様々ですが、皆さん笑顔で臨機応変に対応してくださり、安心してお願いできています。この活動を通じて、ボランティアの経験だけでなく、企業の進める社会貢献活動ってどんなものだろう?ということを経験し、今後、学生の皆さんが様々な活動に参加していくきっかけのひとつになれば幸いです。



内閣府国際青年育成事業 愛知県受け入れプログラム

国際青年育成事業は、日本と諸外国の青年との交流を通じて青年相互の友好と理解を促進し、青年の国際的視野を広げ、国際社会でリーダーシップを発揮できる青年の育成を目指しています。今回は、日本とペルー共和国、リトアニア共和国の青年の交流を深める 1 泊 2 日の合宿型交流プログラムに愛知淑徳大学学生 8 名が参加しました。プログラムの中では、文化・教育・環境の 3 つのテーマに分かれた現場視察やディスカッション、各国の文化紹介などを通して相互理解を深めました。



【学生の声】

交流文化学科 2 年 浅野 有香

2 日間のプログラムを通して、海外青年の方と一緒にご飯を食べたり、踊ったり歌ったりして、たとえ海外に行ってもなかなかできない経験をすることができました。

英語を使ったディスカッションでは、私たち日本人の考え方はなんて堅いのだろうと思うことがありました。それは 1 人の海外青年が「海が綺麗だから外でディスカッションをしよう」と提案してきたことです。私は、決められていることを変更するなどは考えたこともなかったので、とても驚き、ここが日本人の考え方との違いだと感じました。また、文化紹介では、それぞれが自分たちの国をその国らしく表現していて、文化が違えば表現も異なることを実感しました。

海外青年と比べて日本人は消極的だと感じるが多くあり、この事業への参加をきっかけに、私は一人の日本人としてもっと誇りを持てる人になりたいと思うようになりました。英語を使ったこのプログラムは、私にとってレベルの高い挑戦であり、上手くいかないこともありましたが、たくさんのことを学び、気付くことができました。これからは、日本と外国を繋ぐ仕事をしたいという私の目標に向けて、これらのことを活かしていきたいです。

名古屋コーチンもりあげ隊

地域活性化や地産地消、食文化に興味がある学生たちが「名古屋コーチンの魅力を、若い人にも知ってもらいたい！」という思いで結成し、2013 年度は「おもてなしレシピ」コンテストの企画・実施や、若者向け情報誌「とりせつ」の制作に取り組みました。

【学生の声】

交流文化学科 4 年 木全 朱耶奈

大学 4 年間の集大成として地域貢献を実践的に学びたく参加しました。「名古屋コーチン」は、知っていてもなかなか食べる機会がないという存在でした。この活動を通して、こんなにもおいしくて身近なんだ！と知り、この驚きと同じ若者にもっと伝えたいくなりました。農業センターの方々と一緒に、料理コンテスト開催やイベント参加、テレビ出演、冊子作り等、滅多に体験できないことに取り組ませていただき、私自身本当に充実していました。また、少しでも多くの方に名古屋コーチンを身近に感じていただけたと思います。自分の家族にも名古屋コーチンが浸透したことも嬉しかったです！

【地域の方の声】

名古屋市農業センター
畜産普及係長 渡辺 正 様

私たちは地域資源である名古屋コーチンの魅力を若い世代に知ってもらい、その情報を発信してほしいと考えていました。この思いを愛知淑徳大学 CCC お伝えしたところ、名古屋コーチンを観光や街おこしのツールとして活用したいという学生さんたちが集まり、「名古屋コーチンもりあげ隊」が結成されました。さまざまな活動に取り組みられ、2013 年度の活動の集大成として「とりせつ」（名古屋コーチンのおいしさを楽しむ解説本）の編集にまで至りました。来年度も活動を継続されることを是非お願いいたします。



3-2. 学内助成事業「チャレンジファンド」

CCC では学生によるさまざまな自主活動を助成する「チャレンジファンド」を設けています。地域のニーズや思いに応える活動や、社会的に意義の高い活動に対して、愛知淑徳大学後援会の協力を得て資金面での助成を行っています。

2013年度は、18 団体が採択され、地域でそれぞれの活動を展開しました。以下、各団体の活動概要について紹介いたします。



コンペ
2013年6月9日（日）



認定式
2013年6月19日（水）



振り返り会
2014年1月28日（火）



最終報告会
2014年3月17日（月）

あじゅあす



あじゅあすの笑顔増やそう計画

目的

地域の子どもたち、障がい者支援施設の方々との交流を通して、みんなの笑顔を増やすこと。

【団体概要】

代表：三宅 和
（福祉貢献学科3年）
メンバー数：75名

ういるく



子どもたちと「With」+「Walk」

目的

東日本大震災により愛知県内に避難している子どもたちと、名古屋近郊に住む子どもたちが、キャンプを通じて思い出を共有すること。

【団体概要】

代表：栗崎 颯太
（人間情報学科2年）
メンバー数：30名

エコのつぼみ



繋ぐ想いを広げよう！

目的

学内で緑のカーテンづくりを行い、大学生のエコ意識の向上とライフスタイルを見直すきっかけづくりをすること。

【団体概要】

代表：西山 裕紀
（ビジネス学科3年）
メンバー数：45名

カラコミュ



メディアコンテ〜繋げて広がる僕らのカラコミュ〜

目的

伝えたい想いがあっても1人では困難であったり、手段がない方々のため、一緒に写真や音声を使って届けるお手伝いをする。

【団体概要】

代表：安藤 栞
(メディアプロデュース学科3年)
メンバー数：8名

国際協力研究会



Table For Two を地域へ広げる！

目的

日本が抱える食料廃棄や肥満の問題、開発途上国が抱える貧困や飢餓の問題をみつめる機会をひろげていくこと。

【団体概要】

代表：暮石 三津稀
(心理学科4年)
メンバー数：9名

こけっこー



子どもたちに愛と笑顔を届けよう！

目的

児童養護施設で暮らす子どもたちがおもいきり甘えて遊べる時間をつくり、新たな出会いや気づきを得られるお手伝いをする。

【団体概要】

代表：橋口 かのこ
(教育学科2年)
メンバー数：17名

小島ゼミ



日本語に馴染んで、より充実した日々を。

目的

外国人実習生として来日している方々に、楽しみながら学んでもらうことを目指した日本語サポート活動を行い、日本の生活習慣や文化を知ってもらうこと。また、多文化共生についての理解を深めること。

【団体概要】

代表：松岡 美帆
(教育学科4年)
メンバー数：15名

コミュカフェ



福祉施設からはじまるまちづくり

目的

月に1度のカフェ活動を通して、福祉施設を地域の方たちが気軽に立ち寄れる憩いの場にしていくこと。

【団体概要】

代表：浦辺 綾子
(心理学科2年)
メンバー数：17名

こめ☆こめくらぶ



自然に帰る～田んぼからみえる私たちの世界～

目的

子どもたちに田んぼに入ってもらい、そこにある命を感じてもらうことで「食」への意識を持つきっかけをつくること。

【団体概要】

代表：藤本 涼子
(交流文化学科 3 年)
メンバー数：13 名

はぴばる



みんなを笑顔に！

目的

バルーンアートを通して子どもたちの創造性や工夫性を育てていくとともに、様々な方との交流の場をつくること。

【団体概要】

代表：澤田 真名美
(医療貢献学科 3 年)
メンバー数：12 名

福祉貢献学会 地域密着班



地域のための活動

目的

障がいのある方々が日常生活の中で感じる困りごとを、地域の方々に疑似体験してもらうことによって、福祉に対する関心を深めてもらうこと。また、健常者と障がいのある子どもが一緒に遊べる機会をつくること。

【団体概要】

代表：児島 悠斗
(福祉貢献学科 2 年)
メンバー数：26 名

大学祭実行委員会 Share smile



三世代で地域交流 お料理教室

目的

小学生や高齢者の方々と大学生がお料理教室を通して、地域の中での多世代交流を深める場をつくること。

【団体概要】

代表：小出 愛海
(交流文化学科 2 年)
メンバー数：9 名

大学生にもエシカルを！



大学生にもエシカルファッションを！

目的

地球環境に配慮した素材と生産方法によって生み出される「倫理的な (ETHICAL)」ファッションを大学生に広げること。

【団体概要】

代表：松井 里菜
(交流文化学科 2 年)
メンバー数：14 名

ASU 震災復興応援プロジェクト



Candle Night ～ ASU 震災復興応援プロジェクト～

目的

東日本大震災の風化を防ぎ、自分たちの暮らすまちでの防災意識を高めていくためにキャンドルナイトを通して意識づけをすること。

【団体概要】

代表：藤尾 翔太郎
(ビジネス学科 3 年)
メンバー数：10 名

ASU への Funfair



愛知淑徳大学生による愛知淑徳大学生のための フェアトレード推進！

目的

ものを購入することを通じて、誰でも出来る国際協力のひとつであるフェアトレードを大学生に広げること。

【団体概要】

代表：河田 朗奈
(人間情報学科 3 年)
メンバー数：8 名

ASU element project



小学校外国語（英語）活動サポート

目的

長久手市、日進市の小学校での外国語活動サポートを通して、子どもたちに外国語に触れる楽しさを伝えること。

【団体概要】

代表：北垣 かなえ
(英文学科 3 年)
メンバー数：55 名

Fsus4



音楽をもっと身近に♪～音楽を通して交流を深め、 音楽で人と人との輪を広げよう～

目的

地域の方々に音楽の楽しさを知っていただき、地域に音楽の「輪」、そして人の「輪」を広げること。

【団体概要】

代表：浜崎 香菜絵
(メディアプロデュース学科 4 年)
メンバー数：14 名

410graph



長久手を撮ろう！

目的

学生の視点で長久手の様々な様子を撮影し、写真を通して新たなまちの魅力を発信すること。

【団体概要】

代表：藤岡 泉早
(心理学科 4 年)
メンバー数：4 名

2013 年度、主な地域との連携活動の一部を以下の通り報告します。

4 月

-  長久手古戦場桜まつり
～マイ箸づくりサポート～
(長久手市、学生団体 エコのつぼみ)
-  JICA メキシコ研修員との交流会 (JICA 中部国際センター)
-  環境 NPO・NGO 長期インターンシップ

5 月

-  トロピカルフルーツフェア
(東谷山フルーツパーク)
-  こどもの日、体験ひろば (名古屋市農業センター)
-  第4回 ESD 研究・活動発表会 (中部大学 国際ESDセンター)
-  ハートフルデー (㈱デンソー)
-  介助犬フェスタ 2013 (社会福祉法人 日本介助犬協会)
-  長久手市市が洞地区「クリーン活動」
(市が洞地区自治会連合会)
-  AQUA SOCIAL FES!! 2013 ～名古屋の自然と水に感謝しよう～
(藤前干潟クリーン大作戦実行委員会、中日新聞社、トヨタ自動車㈱)
-  留学生との異文化交流「World Cafe」(学生スタッフ)
-  児童との集団遊びと工作
「お兄さん・お姉さんと学ぼう」(学生有志)
-  東日本大震災支援、世界青年の船、JICA 地球案内人
ボランティア、海岸清掃活動、NGO での国際協力活動

6 月

-  海外支援 衣料回収活動 (㈱デンソー)
-  クリーンキャンペーン・なごや 2013
(㈱デンソー)
-  名古屋市職員の方とのゴミ分別共同巡回
(名古屋市千種環境事業所)
-  CCC 環境講座『食 × 環境』～ひとねる味噌蔵～
(蔵元 樹塚味噌)
-  活動学生交流会 ボラコミ
～想いをデザインしよう～ (CCC 学生スタッフ)
-  長期実践型インターンシップ、海岸清掃活動、
NGO での国際協力活動、キャンプカウンセラー

7 月

-  デンソーハートフルまつり (㈱デンソー)
-  第 25 回 愛知サマーセミナー
(愛知サマーセミナー実行委員会)
-  障がいのある子どもたちとのブルーベリー摘みイベント
(トヨタ車体㈱)
-  白金児童館コミュニティカフェ「七夕」・「夏祭り」(学生団体 りんく)
-  「英語であそぼう」(英文学科 学生団体)
-  NGO での国際協力活動、キャンプカウンセラー

8 月

-  日進市受託事業「パパ応援講座」
(日進市市民協働課)
-  夏休み子ども日本語教室
((公財) 名古屋国際センター)
-  第7回 子ども平和フォーラム
(名古屋学生青年センター)
-  ふれあい交流会2013 (名東区社会福祉協議会)
-  夢いっぱいの特等席 福祉コンサート
((公財) 名古屋フィルハーモニー交響楽団)
-  ゲンキ・すまいる・プロジェクト
(愛知県被災者支援センター)
-  児童館での自主企画「世界を知ろう！」
(学生団体 ACE)
-  ネイチャーゲーム (学生団体 ちゃっちる)

9 月

-  9th NAGOYA UNDOUKAI
(名古屋商工会議所)
-  おでかけボランティア ((公財) アジア保健研修所)
-  内閣府国際青年育成事業 愛知県受け入れプログラム
(愛知県、愛知県青年国際交流機構)
-  名養デイキャンプ
(名養クラブデイキャンプ実行委員会)

10 月

-  地球のチカラアカデミー (東邦ガス㈱)
-  ナマステ・インディア 2013
in KARIYA (刈谷市国際交流協会)
-  秋のフルーツフェア工作ブース (東谷山フルーツパーク)
-  リニモでハロウィーン (NPO 法人フィール・ザ・ワールド)
-  長者町糸びす祭り (長者町糸びす祭り実行委員会)
-  国際子ども学校運動会 (国際子ども学校を支援する会)
-  ワールド・コラボ・フェスタ 2013
(ワールド・コラボ・フェスタ実行委員会)
-  白金児童館コミュニティカフェ「ハロウィン」(学生団体 りんく)
-  国際イベントでのブース出展「アジアの文化紹介」
(学生団体 ACE)
-  星が丘ガールズマルシェ (学生団体 あっさ部、きら
きらしたら、名古屋コーチンもりあげ隊、Vege Gaga)
-  地域活性化・まちづくり活動、環境活動、長期実
践型インターンシップ

- 11月**
- めいとうボランティア展 (名東区社会福祉協議会)
 - 農業センターまつり (名古屋市農業センター)
 - 名古屋の若者に贈る～Nagoya Sweets Project～ (名古屋市青少年交流プラザ)
 - 【共催】ボランティアカフェ「ことばでできるボランティア」(公益財団法人あすて)
 - リモ沿線学生交流活動支援事業「しあわせステーション」(学生団体 はぴこら)
 - 名古屋コーチン「おもてなしレシピコンテスト」(学生団体 名古屋コーチンもりあげ隊)
 - 長久手防災活動「Do Nabe Net NAGAKUTE」(学生団体 Do Nabe Net)
 - 小学校での自主企画「国際理解教室」(学生有志)
 - NPO 法人でのインターンシップ研修

- 1月**
- 愛知なごや雪まつり (愛知なごや雪まつり実行委員会)
 - ESD 大学生リレー・シンポジウム「生物多様性・食・農と持続可能性」(愛知学長懇話会)
 - 東日本大震災支援 (キャンドルナイト)

- 2月**
- 日進市受託事業「パパ応援講座」(日進市市民協働課)
 - 名東区人権尊重まちづくり受託事業「めいとう☆といろ～カルタをつくろう～」(名古屋市名東区まちづくり推進室)
 - ESD まつり (JICA 中部国際センター)
 - 地球のチカラアカデミー (東邦ガス(株))
 - パレンタインチョコをつくろう (東谷山フルーツパーク)
 - JICA に行こうツアー (CCC 学生スタッフ)

- 12月**
- 日進市受託事業「子ども国際理解教室」(日進市市民協働課)
 - Candle Night Nagoya 2013 (NAGOYA 学生キャンパス「ナゴ校」)
 - 愛・N クリーン～わたしたちの“まち”をきれいにしよう～(長久手市くらし文化部環境課)
 - 長久手市ゴミ減量プロジェクト (長久手市くらし文化部環境課)
 - クリスマス会 (名古屋市障害者スポーツセンター)
 - ゲンキ・すまいる・プロジェクト (愛知県被災者支援センター)
 - 余暇活動 (特別養護老人ホーム 愛知たいようの杜)
 - クリスマスカードキャンペーン (特定非営利活動法人チェルノブイリ救援・中部)
 - CCC 環境講座「エネルギー × 環境」～ESD カフェ 持続可能な明日のつくり方～((公財)名古屋国際センター)
 - 樹塚味噌 見学ツアー (学生有志)
 - Let's be "leader"s ! (CCC 学生スタッフ)
 - 白金児童館コミュニティカフェ「クリスマス会」(学生団体 りんく)

- 3月**
- ぼらマッチ! なごや (名古屋市)
 - マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知 2014 (マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知実行委員会)
 - すみれの贈呈式 レクリエーション (瀬戸信用金庫)
 - JICA メキシコ研修員との交流会 (JICA 中部国際センター)
 - ながくて環境フェア (長久手市くらし文化部環境課)

- 通年**
- 名古屋市内児童館イベントサポート、小中学校での授業サポート、日本語教室、高齢者外出支援など
 - 手話 DE ランチ
 - 名古屋市内児童館でのスポーツクラブ



CCCでは定期的にボランティア情報を発行しています。青少年育成、環境活動、国際交流、福祉貢献などの分野の活動を紹介し、学生がそれぞれに興味・関心のある活動に参加できるようになっています。2013年度はメール配信を含め、計 20 号のボランティア情報を発行しました。



お昼ご飯を食べながら、気軽に話を聞いたり、様々な交流ができるCCCランチタイム企画を実施しています。ボランティア活動に参加した学生が、活動の魅力や活動を通して得た気づきを他の学生に伝えるボランティア活動報告会など、学生が共に学び、考える場づくりのランチタイムとなっています。

利用状況

(2013年4月1日～2014年3月31日までの総計数)

CCC登録者数…2,337 名 (本学学生の約 26%)
CCCから配信されるボランティア情報の取得、活動に参加するための登録

CCC利用者数…14,319 名
情報取得、活動報告会、ランチタイム企画参加、活動の相談・ミーティングなどで来室する学生の延べ人数

CCC 学生スタッフの活動



CCCは、大学にあるさまざまな想いをもって多くの学生が集まる場所となっています。CCC学生スタッフは、同じ学生という目線から、学生の想いをかたちにする重要な役割を担っています。ひとりひとりの個性を活かし、新たなチカラをともに発見するお手伝いもしています。

また、学生スタッフとしてCCCを紹介するだけでなく、自ら企画なども行い、自分たちの活動の幅を広げています。

羽田野有紀（スポーツ・健康医科学科 4年）
高木 祐太（スポーツ・健康医科学科 4年）
三輪 恵理（メディアプロデュース学科 4年）
三島里紗子（国文学科 4年）
北垣かなえ（英文学科 3年）
松岡 咲希（福祉貢献学科 2年）
安藤 佑哉（人間情報学科 2年）
磯村 絵理（福祉貢献学科 2年）

長久手



星が丘

臼井 早紀（交流文化学科 4年）
加藤エリカ（交流文化学科 4年）
塩崎 未来（交流文化学科 4年）
中川 由有（ビジネス学科 4年）
藤本 涼子（交流文化学科 3年）
瀧 亜紗美（交流文化学科 3年）
西山 典佑（ビジネス学科 3年）

【活動内容】

《日々の活動》

- ◇学生対応
（ボランティア情報などの提供）
- ◇「コラボ通信」、掲示ポスターなどの作成
- ◇企画立案、実施報告
- ◇書類、チラシ、写真など記録物の管理
- ◇最新トピックス等の紹介
- ◇掲示板レイアウト

《年間を通した活動》

- ◎CCCを紹介する
 - ・オープンキャンパス、新入生ガイダンスなど
- ◎スキルアップを図る
 - ・学生スタッフ合宿
 - ・活動振り返会ミーティング

他にも…

- ◎自ら企画する（2013年度）
 - ・「デンソーグループハートフルまつり」ブース出展
 - ・高校生向けワークショップ「ピースをつくろう」
 - ・学生スタッフ企画「Let's be "Leader" s!」

「大学ボランティアセンター 学生スタッフセミナー 2013」への参加

主催：特定非営利活動法人ユースビジョン

日程：2013年9月11日～12日

場所：大阪市青少年文化創造ステーション

「大学ボランティアセンター 学生スタッフセミナー 2013」に、CCCから3名の学生スタッフが参加しました。全国から集結した各大学ボランティアセンターの学生スタッフと共に、「ボランティア」、また、「ボランティアセンターをもっと素敵な場所にするために私たちができること」について、みんなで考えました。

学生スタッフの役割は、学生が地域や社会づくりに参加する一歩を踏み出すお手伝いをする、参加する側と受け入れる側の架け橋になること、さらにその双方が変化するような役割を担っていくことだと学びました。

より多くの学生にCCCを知ってもらおうと同時に、一緒に地域や社会へ飛び出すために、共に考え、行動していきたいと思います！

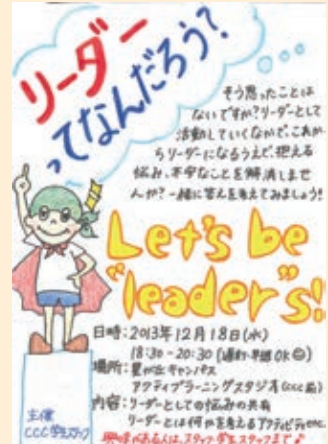


学生スタッフ企画「Let's be "Leader"s!」

2013年12月18日に、様々な活動団体でリーダーをしている人、これからリーダーになる人や、リーダーに興味のある人を対象にしたワークショップ「Let's be "Leader"s!」を開催しました。

参加者の感想

- リーダーの輪ができてよかった！周りの皆がリーダー。話すことが上手な人、気遣いができる人、色々なリーダーがいていい。自分の良さを生かしたリーダーになりたいと本当に思いました。
- 悩んでいるのは俺だけじゃない、誰でも悩んでいるということを再認識できました。
- リーダーとしてどうあるべきか、またリーダーになった後が重要なんだと分かる、すごく良い機会でした。



～卒業する学生スタッフの言葉～

スポーツ・健康医科学科4年 高木 祐太

私は、二年生のときから三年間、学生スタッフとして活動してきました。はじめは、学生にCCCのことやボランティア活動の詳細などをうまく説明できたかどうか悩むことが多かったです。ボランティア活動をしたことのない学生にある活動を紹介したところ、「面白そうだから参加してみます!」と言ってくれ、スタッフとしてうまく説明できたと思い、自信ができました。その後、その学生から、「参加してみても良かった」「楽しかった」と報告があり、とても嬉しくなりました。

CCCに関わるようになってから、表情豊かになったね、優しくなったね、と言われることがあります。学生スタッフとして他学部の学生と接したり様々なボランティア活動に参加して色々な人と接することで、人と関わることの楽しさ、喜びを感じ、自分を表現することができるようになったからだと思います。自分を成長させてくれた人たちに、感謝したいです。

大学四年間を振り返ると、常にCCCが中心にあったように思えます。CCCと出会えたことで学生生活が大変充実した、素敵なものとなり、自分自身、大きく成長できました。ここでの経験を活かし社会に出て頑張っていきたいです。

交流文化学科4年 塩崎 未来

CCCでの活動を通じてもっとも強く感じていることは、“change”です。一年次からCCCにある環境団体に所属し、二年次からは学生スタッフとして活動してきました。学生スタッフとして、一つの経験を通してこんなに人って変わるんだ、自分らしさってこんなに面白いんだ、と成長していく学生を見る度に驚いていました。私にはそのきっかけを与えること、励ましながら一緒に活動することくらいしかできませんが、一言のアドバイスで多くの学生が自分の道を切り拓いていっている姿には多くの刺激をもらっていました。

CCCでの思い出はたくさんあります。100人以上の人前での司会にとてつもなく緊張したことも、辛いときに温かい言葉をもらい、人の優しさを泣きたいくらい実感したことも、初めてでした。社会にはこんなに面白い大人がいる、自分の考えを持っている学生がいるという出会いが私の世界をどんどん広げてくれました。大学生にしかできない、体験しなければわからない、そんなかけがえのない経験のひとつつつが宝物です。本当に幸せな四年間でした。これからは社会人として、このたくさんの人を繋いでいきたいと思っています。

CCC 企画 2013「環境サロン」

2012 年度より継続的に行っている「CCC 環境サロン」は、身近な環境から世界の環境を学ぶことで、自らの生活の見直しや環境活動への一歩を踏み出すきっかけとなります。環境に関する「気づき」を「より深く、より広く」することで持続可能な地域社会を自分たちがどのように創っていくのかを学びました。

講座「ひとねる味噌蔵」

ライフスタイルの変化とともに、私たちの食生活には「安く早くて簡単な」食べ物が増え続けています。この講座では、古くから伝わる「変わらないもの」と、時代の流れと共に「変わっていくもの」のバランスを保ちながら、味噌づくりを通して、人づくりや地域づくりに取り組んでいる榊塚味噌の野田清衛社長をお招きしました。野田社長より、「食べること」をテーマにお話いただき、いのちをいただくこと、いのちと共に生きていくことを考えました。

日 時：2013 年 6 月 4 日（火） 18:30 ～ 20:00
場 所：星が丘 CCC 前アクティブラーニングスタジオ
講 師：（蔵元）榊塚味噌 社長 野田 清衛 氏
参加者：10 名



参加した学生の声

ビジネス学科 2 年 棚橋 聖良

この講座を通して、「食とは生きること」という言葉の温かさを感じました。また、食を見直すことで、日本を支える「産業」に繋がっていることを実感しました。今後、日本の伝統のすごさを伝えつつ、ビジネス学部での学びを通して、伝統から考える地域産業についてみんなで考える機会を作っていきたいと思います。

ワークショップ「ESD カフェ」持続可能な明日のつくり方

2014 年に「持続可能な開発のための教育（ESD）」に関するユネスコ世界会議が開催されるにあたり、持続可能な社会を築くはじめの一歩として「ESD カフェ」持続可能な明日のつくり方を開催しました。環境に優しいエコクッキングの実践と、名古屋国際センター（以下、NIC）の外部講師をお招きし、世界の環境事情についてのお話を伺い、環境への意識を高めました。

日 時：2013 年 12 月 12 日（火） 17:00 ～ 20:00
場 所：星が丘キャンパス エクステンション教室
講 師：デュバン・フレデリック氏（NIC 外国人講師・フランス）
スリヤム・ニティヤ氏（NIC 外国人講師・インド）

参加者：18 名



企画した学生の声

交流文化学科 3 年 中島 萌子

今年は名古屋で「ESD（持続可能な開発のための教育）」の国際会議が開かれます。そこで、学生に ESD を気軽に知って、行動してもらうきっかけになればと「ESD カフェ」を開きました。

まずは「食材を皮も一緒に煮込む」「調味料を使いすぎない」「洗剤を意識的に減らしてみる」など普段よりエコを意識したエコクッキングに挑戦しました。慣れないやり方なので時間がかかってしまいましたが、その分、とってもおいしくできました！

続いて、お招きした外国人講師から各国のエコについてお話を伺いました。「環境の考えはあっても、自分の得にならなければ、ごみはその辺に捨てちゃうよ」とフランス人のフレデリックさん。「宗教にかかわることや昔からの慣習は、たとえ環境に悪くてもそのまま続いちゃう」とインド人のニティヤさん。これに対して、私たちも、日本のリサイクルの現状や今までの活動などを数字や写真で説明しました。「日本はリサイクルが進んでいるけれど、それはごみの量が多いからなんじゃない？」など、3 か国の事情を比べながら、広い視野から見た日本の環境と、自分にもできるエコなアクション方法を学ぶことが出来ました。企画する立場の私も学ぶことが多い一日となりました。参加してくれた皆にもこの経験が活かされることを願っています。

ニュースレター「コラボ通信」

CCCでの取り組みを詳しくお伝えするニュースレター「コラボ通信」を定期的に発行しています。
2013年度は、学生スタッフが全頁編集し、学生に親しみやすい内容となっています。



36号 2013年4月1日発行



37号 2013年8月1日発行



38号 2013年11月1日発行



39号 2014年1月1日発行

運営委員・職員一覧

2013年度 CCC 運営委員

委員長	ブイ チ トルン (交流文化学部)
委員	石坂 綾子 (ビジネス学部)
	伊藤 昌亮 (メディアプロデュース学部)
	小早川真衣子 (コミュニティ・コラボレーションセンター)
	樗木 勇作 (文学部)
	黒川 文子 (福祉貢献学部)
	五島 幸一 (メディアプロデュース学部)
	小島 祥美 (文学部)
	篠原 郁子 (心理学部)
	谷口 純世 (福祉貢献学部)
	日置 陽子 (コミュニティ・コラボレーションセンター)
	吉田 敬 (健康医療科学部)
	若松 孝司 (交流文化学部)
	小田橋恵子 (コミュニティ・コラボレーションセンター)

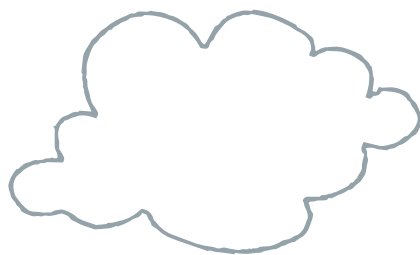
2013年度 CCC 職員

長久手キャンパス

秋田有加里
後藤 誉子
宮城島泰子
伊藤 真由
多田羅順子

星が丘キャンパス

福原 春菜
前田 智子
安田なづ子



愛知淑徳大学 コミュニティ・コラボレーションセンター

長久手キャンパス

〒480-1197 愛知県長久手市片平二丁目 9
TEL (0561) 62-4111 (代表)

星が丘キャンパス

〒464-8671 名古屋市千種区桜が丘 23
TEL (052) 781-1151 (代表)



この印刷物は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

2013 年度 CCC 活動報告書

発行日：2014 年 5 月

発 行：愛知淑徳大学

コミュニティ・コラボレーションセンター